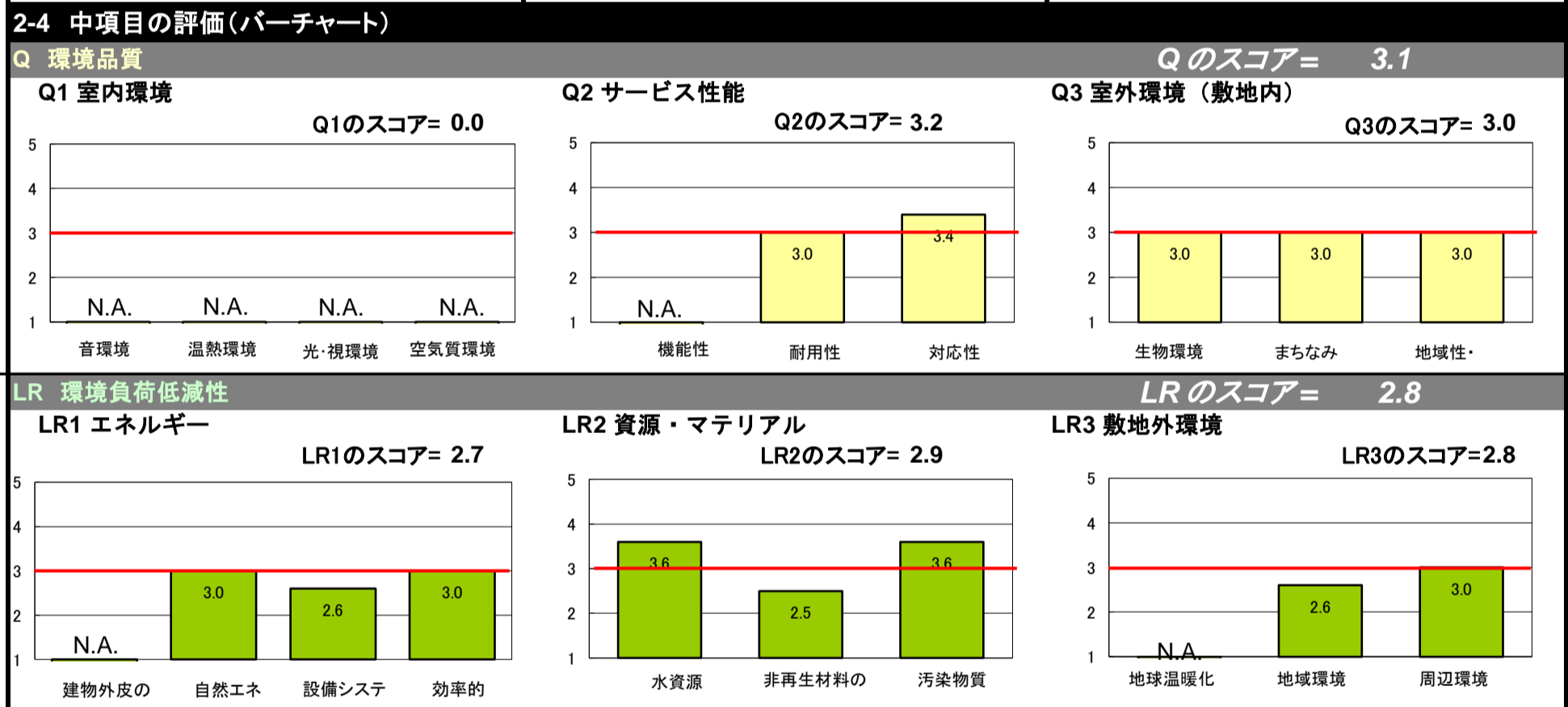
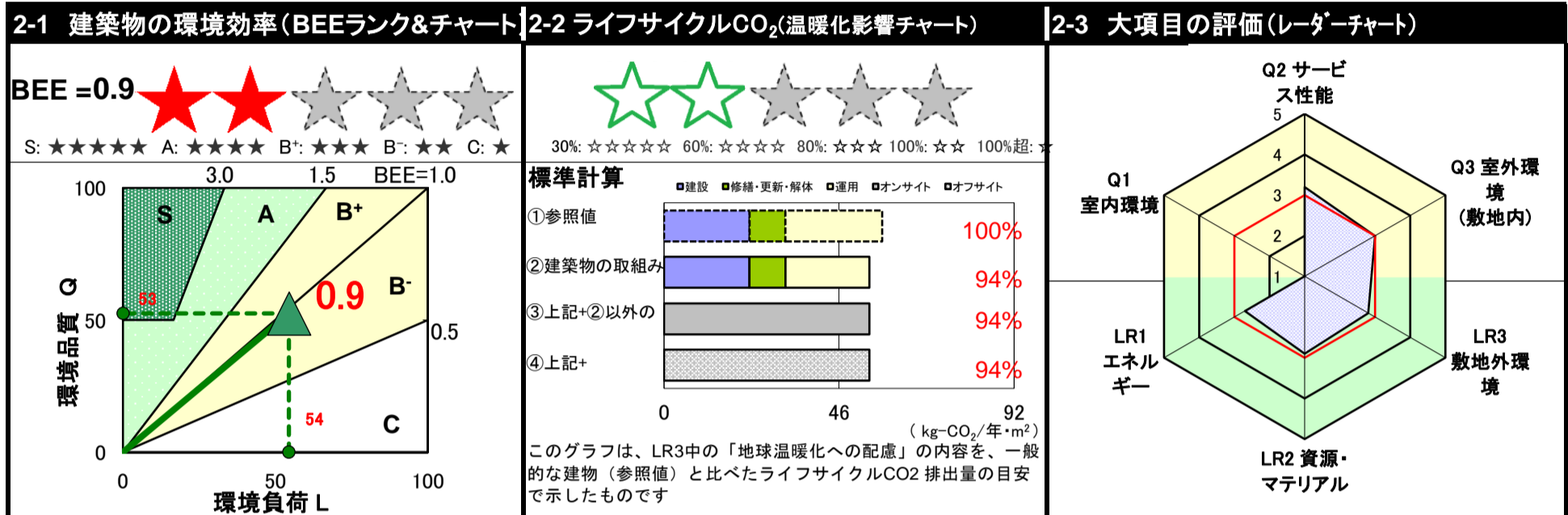


# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新業)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社マキタ 岡崎工場 量産技術棟	階数	地下0階地上5階
建設地	愛知県岡崎市合歓木町字渡嶋18-1(他)	構造	RC造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	760 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年3月 予定	評価の実施日	2021年4月6日
敷地面積	115,011 m <sup>2</sup>	作成者	ペルドクール横須賀
建築面積	1,479 m <sup>2</sup>	確認日	2021年4月6日
延床面積	5,273 m <sup>2</sup>	確認者	ペルドクール横須賀



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p><b>N.A</b></p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p><b>3.0</b></p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p><b>39.8 %</b></p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p><b>0.0 %</b></p>
<p>②資源の有効活用</p> <p><b>2.9</b></p>	<p>④地域材の活用</p> <p><b>1.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
株式会社マキタ 岡崎工場 量産技術棟

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:  
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	3.0	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	3.0	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	3.0	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	-	-	3.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	-	-	3.0	-	-
1.3 吸音				-	-	-	-	3.0	-	-
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御				-	-	-	-	-	-	-
1 室温				3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 外皮性能				3.0	-	-	-	3.0	-	-
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				3.0	-	-	-	3.0	-	-
2.3 空調方式				3.0	-	-	-	3.0	-	-
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-	-	-
1 昼光率				3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 方位別開口				-	-	-	-	3.0	-	-
3 昼光利用設備				3.0	-	-	-	3.0	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-	-	-
1 昼光制御				5.0	-	-	-	3.0	-	-
3.3 照度				3.0	-	-	-	3.0	-	-
3.4 照明制御				3.0	-	-	-	3.0	-	-
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	3.0	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-	-	-
1 換気量				3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	3.0	-	-
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	3.0	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>										
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	3.0	-	-
3 パリアフリー計画		独自		3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-	-	-
3 内装計画				3.0	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.5	3.0	0.52	-	-	-	3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.0	0.48	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.1	0.33	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②		-	3.0	0.23	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	4.0	0.15	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-	-
2.4 信頼性				0.1	3.0	0.19	-	-	-	-
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
3 電気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-

給水・雑排水・汚水排水管全てCを満たす

<b>3 対応性・更新性</b>				0.4	3.4	0.48	-	-	-	3.4
<b>3.1 空間のゆとり</b>				0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		階高4m以上	-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40	-	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>				0.3	3.1	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	設置スペースに余裕が確保されている	-	4.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					-	0.57	-	-	-	3.0
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		独自③		-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>		独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				-	3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>						-	-	-	-	2.8
<b>LR1 エネルギー</b>					-	0.40	-	-	-	2.7
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			BPI=-	3.0	-	-	-	-	-	-
<b>2 自然エネルギー利用</b>				3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>			BEI=0.87	3.0	2.6	0.63	-	-	-	2.6
<b>4 効率的運用</b>				0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30	-	-	-	2.9
<b>1 水資源保護</b>				0.1	3.6	0.15	-	-	-	3.6
<b>1.1 節水</b>			節水便器、センサー一体型小便器を使用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>				0.6	3.3	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		便器洗浄に中水を利用	3.0	4.0	0.33	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				0.6	2.5	0.63	-	-	-	2.5
<b>2.1 材料使用量の削減</b>				-	2.0	0.07	-	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>				-	3.0	0.25	-	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>				3.0	-	-	-	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		独自		3.0	3.0	0.25	-	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		発泡剤使用の断熱材不使用	-	5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	0.30	-	-	-	2.8
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		①	ライフサイクルCO2排出率94%	-	-	-	-	-	-	-
<b>2 地域環境への配慮</b>				0.5	2.6	0.50	-	-	-	2.6
<b>2.1 大気汚染防止</b>				-	3.0	0.25	-	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>				-	2.0	0.50	-	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>				0.2	3.5	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	十分な駐車場および駐輪場を設置	-	5.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				0.5	3.0	0.50	-	-	-	3.0
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	0.33	-	-	-	
2	振動	独自		-	3.0	0.33	-	-	-	
3	悪臭			-	3.0	0.33	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

株式会社マキタ 岡崎工場 量産技術棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>N. A</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.9</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:39.8%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社マキタ 岡崎工場 量産技術棟

計画上の配慮事項	
総合	緑化面積を広くすることで、社員の働きやすさなどを考慮している。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	階高を高くし、将来的な拡張性に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	防犯について、周囲に死角となる場所がない。
LR1 エネルギー	全てLED照明を使用し、エネルギー消費量の削減を図った。
LR2 資源・マテリアル	発泡剤使用の断熱材不使用 節水便器、センサー一体型小便器を使用 便器の洗浄水に中水を利用している
LR3 敷地外環境	駐車場に十分なスペースを確保している。
その他	緑化面積が広いため、景観や働きやすさなど近年のニーズに適している。